

日本映画衛星放送株式会社 第42番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成26年11月18日(火) 15時~16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8名 / 出席委員数 7名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井保之・田保橋 淳
鳥居 美砂・西 正
欠席委員(敬称略) : 曾根 和子
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田 成道
顧問 酒井 彰
取締役 佐藤 信彦
編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 澤 尚志
編成制作部 秋永 全徳
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇「闇の狩人」について

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネル「吉永小百合、思い出の日本映画」について

5. 議題(1) 概要

地上波において、時代劇ドラマの製作本数は相変わらず少なく、特に民放においては連続時代劇ドラマがなくなって久しい状況の中、時代劇専門チャンネルは、本格オリジナル長編時代劇として、「鬼平外伝」シリーズ4作品と、「新・御宿かわせみ」の計5作品を製作・放送してきた。そしてこの10月、初めて前後篇2部作となる長編ドラマ「闇の狩人」を放送した。ついては、以下のポイントに着目しつつ、本作品に対する審議を行った。

- 作品の評価。
- 初めて前後篇2部作という形式をとったことについて。
- 今後のオリジナル時代劇の展望について。

6. 議題（1）審議内容

- ・立派な作品で見応えがある。映像的にはフィルム撮影ならではの深い黒が、タイトルの「闇」を感じさせたし、ストーリーに良く合っていた。作品紹介のパンフレットも、デザインや紙質が優れていて、たいへん好感が持てた。
- ・フレームワークや陰影が素晴らしかったし、音楽も作品にマッチしている。時代劇経験が浅い若手俳優の演技も自然で魅力的だった。前後篇のバランスも絶妙で、最後まで興味を惹きつけられた。次は、シリーズ作品を期待したい。
- ・「鬼平外伝 老盗流転」と同じようなフィルムノワール作品だが、映像が凝りに凝っていて、とても面白く見た。津川雅彦は名演だった。
- ・非の打ちどころがなく、意見が割れないので、番組審議会のテーマとして相応しくないほどだ。視聴者の感想を読んでも、ドラマを深く分析し、喜んでいて、こうした目の肥えた視聴者に、高い評価を受けたことに拍手を送りたい。
- ・映画版との違いに驚いた。主人公も違うし、ストーリーも異なる。ピカレスクロマンとしては甘い気もするが、テレビには適していると思った。これから更に話数の増えた作品に取り組む新しい段階へ入った。初映像化作品にも挑戦して欲しい。
- ・前後篇同じチャンネルで放送すべきだ。また、高い視聴率を記録したようだが、有料チャンネルにおける作品の評価基準を視聴率で考えるべきではない。この作品、そしてこのチャンネルの評価や意義を、もっと別の基準で測れないものかと考えてしまった。
- ・俳優が皆時代劇に馴染み、素敵だった。ロケーションで上手く江戸の風景を見せていると思う。若い人がこの作品をどう観たのかが気になる。

<事業者回答>

- ・大きなチャレンジだった作品。いただいた評価は、試みが成功だったということだと思う。今後は、もっと辛口なラストを迎えるドラマも検討はしてよいかもしれない。「前後篇同じチャンネルで放送すべき」というのは、まことに尤もなことだと思う。
- ・作品の成功はスカパー！の力に負うところも大きい。製作スタッフについては、映画「最後の忠臣蔵」をつくった5年前と比べると、随分若返った。我々の製作継続も、スタッフ育成に多少なりとも貢献していると自負している。
- ・資料としてホームページに寄せられた視聴者の声を幾つか紹介したが、明確な批判の声は無かった。こんなことは初めてで、こちらとしても驚いている。
- ・現在のCS業界に強い危機感を抱いている。私どもとしては、新鮮で、優良なコンテンツを出来得る限り数多く作り、提供していきたいと考えている。実際、その力を徐々につけてきている。幅広い提携先との連携を模索し、他社と協力しつつ番組製作を一層進めていきたい。

7. 議題（2）報告事項

吉永小百合企画・主演作「ふしぎな岬の物語」の10月11日(土)公開を記念し、日本映画専門チャンネルで、「吉永小百合、思い出の日本映画」と題し、吉永さん自身が日本映画の名作を選び、その作品への思いを語る特集を10月に放送した。邦画各社の垣根を越えた戦後映画史を代表するセレクションが成立したこと自体が、吉永さんのおかげだし、また、そうした名作とともに語られる吉永さんの話には、あまり知られていない貴重な秘話が多く、とても充実した特集放送となった。視聴者からの反響も大きかった。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2015年1月20日開催。